
ただ愛が語るだけの文

返歌分式

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ただ愛が語るだけの文

【Nコード】

N6227M

【作者名】

返歌分式

【あらすじ】

うつとうしいのが語る。愛なんていらぬものだろ。

「言つとね、私は君のことを愛しているんだよ！」

「そう」

「君に向ける私のこの愛は、海よりも深く山よりも高く、なんてそんな陳腐な表現では表せないほどに愛に溢れた思いでね、そんな私の愛を君は一分の狂いもなく理解できるはずがなくて、私は君が分かつてくれるまで愚かしくも愛を囁き続けるんだ！」

「あー、それって結構うざいな」

「うざいだなんて酷いね。私は君のことをこんなに愛しているのに！ やっぱり私の愛は君には到底理解できないんだね！ 私の愛が重すぎて、広すぎて、潰されないように、視界に収まりきららないぐらいに私の愛はすごいんだね！」

「そうなんじゃねえの」

「そつだよね。そうなんだよね！ 愛してるよ！ 私は世界よりも君を愛している！ 愛している愛している愛している！ 愛って良い響きだよ！ 愛してるよ！ 誰よりも、何よりも、私よりも、君を愛している！」

「あー、まあ、な。なんていうかさあ、黙れよ」

振り下ろしたハンマーが、愛に笑う顔を叩き潰した。

愛だなんだと言う人間を叩き潰した自分は、つまり愛を叩き潰したということなんだろう。

血を垂れ流して地面に横たわるそれをただ無表情に見下ろし、自分はたばこを一吹きした。

悲しいとかなんだとかは特に思い浮かばない。

だって時間が経てば、愛はきつと何食わぬ顔をしていつものへらへら笑いで自分の後ろで愛を囁き続けるのだから。

別に悲しくない。

煩いから叩き潰す。

何回も何回も何度も何度も。

この行為は報われることは決して無い。

両者共。

「ひどいね君。痛くて泣きそうだよ。でも、愛してる!」

「うん。やっぱりうざいな」

非生産行為は今日も当たり前のように行われる。

(後書き)

不死身電波と淡白凶器。

愛なんて、そんなことはどうでもいいことなのです。

愛を理解できないというのなら、『当たり前』ということを感じ取ってください。

愛なんてものよりも、あなたと過ごす当たり前が好きなのですから。

一応、両思い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6227m/>

ただ愛が語るだけの文

2010年10月20日07時23分発行